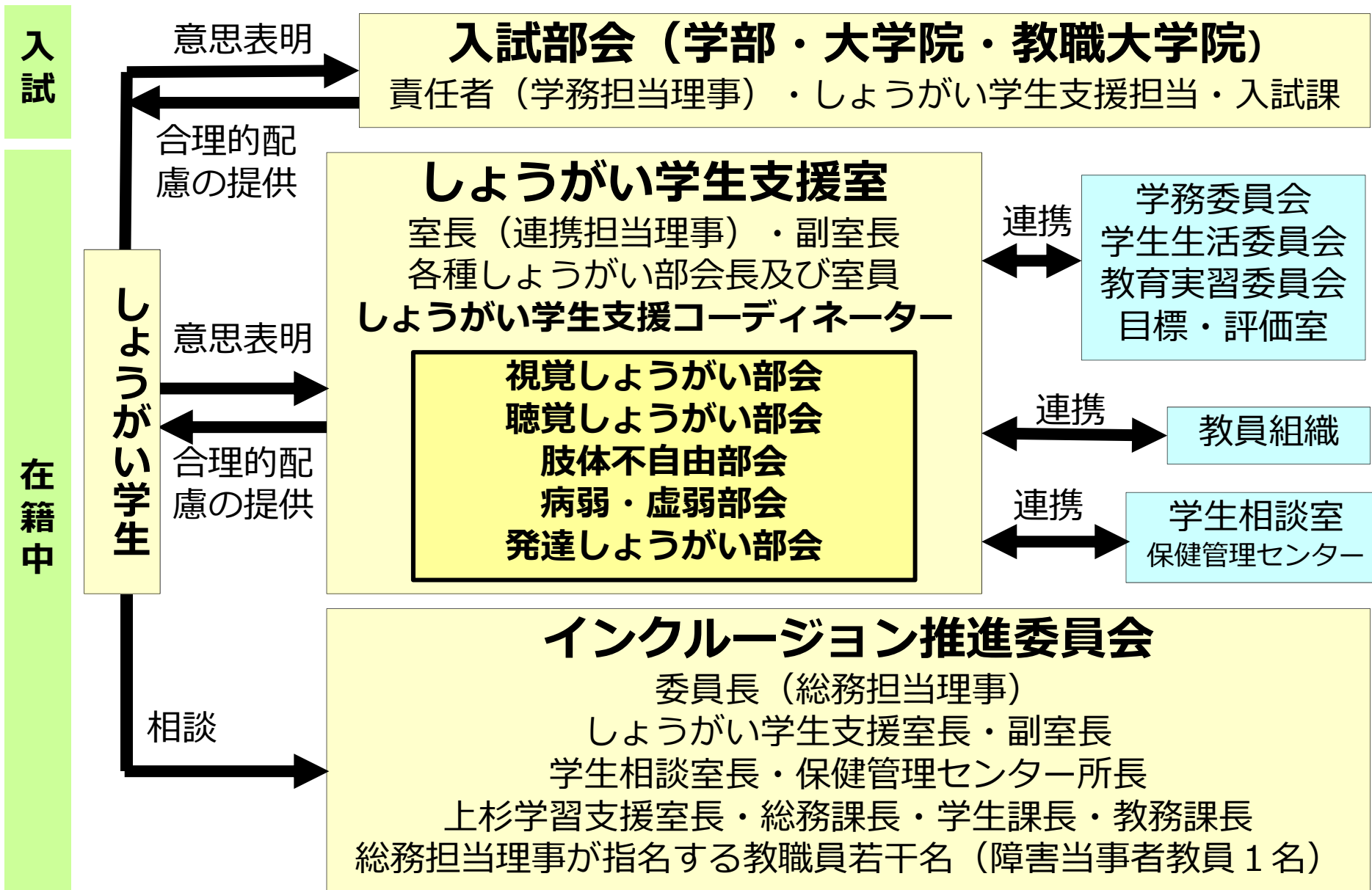


2020年2月15日（土）

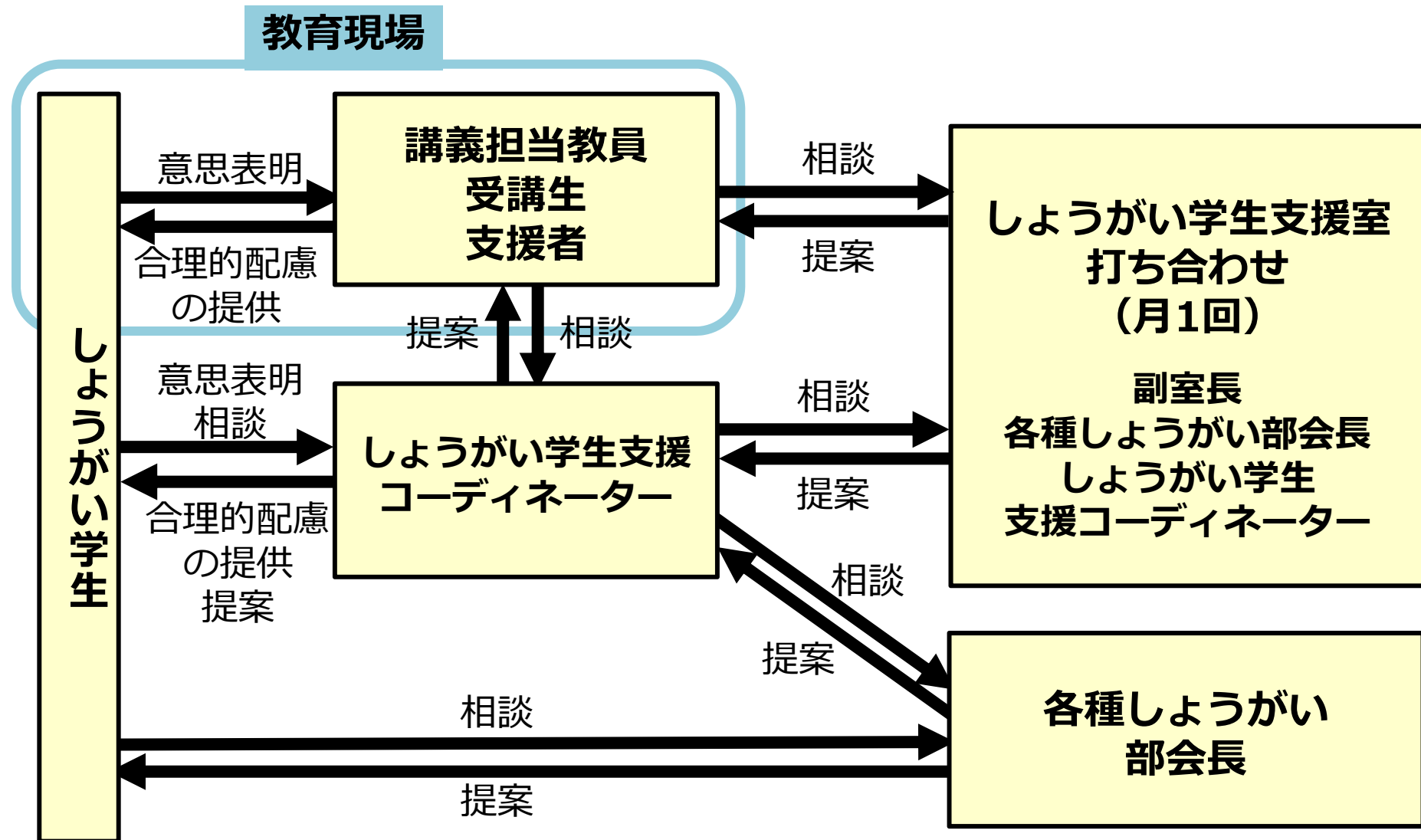
障害学生支援専門テーマ別 セミナー 【建設的対話】

宮城教育大学
特別支援教育講座
准教授 松崎 丈

宮城教育大学における支援体制



しょうがい学生の「対話」の 実践を支える支援体制



聴覚障害学生が経験する「対話」

高等教育



社会的障壁



- 医学モデルや過去の経験に縛られている。
- 社会モデルに移行できずにいる。



意思表示



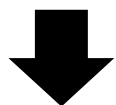
合理的配慮

(法的義務)

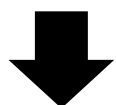
他者と同様に“本質的能力”を発揮できることが目的。他の学生との平等という観点から支援を提供。

聴覚障害学生が経験する「対話」

高等教育



社会的障壁



意思表示



- 自分の障害状況と支援を言語化できない。
- 聴者が怖くて直接伝えられない。

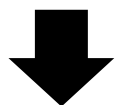
合理的配慮

(法的義務)

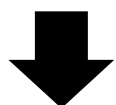
他者と同様に“本質的能力”を発揮できることが目的。他の学生との平等という観点から支援を提供。

聴覚障害学生が経験する「対話」

高等教育



社会的障壁



意思表示



合理的配慮

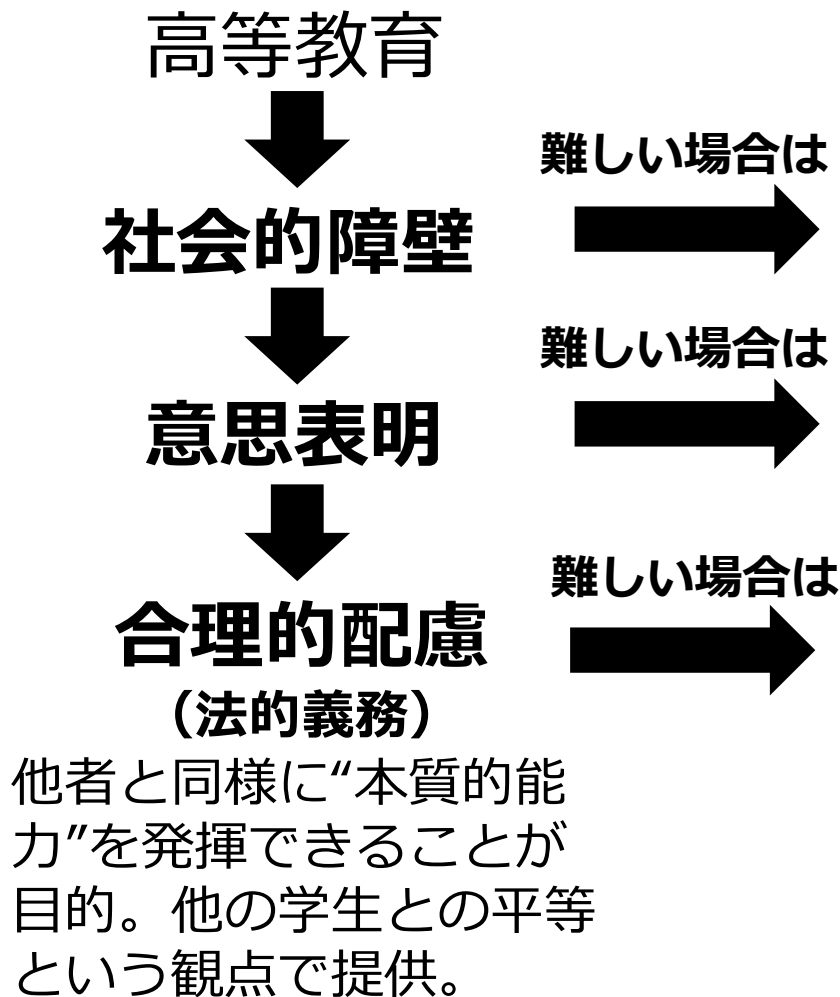
(法的義務)



- 合理的配慮の提供によって新たな社会的障壁が生じたが、言いにくい。
- “本質的能力”の不足に苦悩する。

他者と同様に“本質的能力”を発揮できることが目的。他の学生との平等という観点から支援を提供。

対話と学習によるエンパワメント実践



社会的障壁に気づく支援

(教職員・大学のポリシー)

社会的障壁に気づくことが目的。

意思表示支援

(教職員・大学のポリシー)

社会的障壁の除去を求める能力を獲得することが目的。

学習支援

(教職員・大学のポリシー)

その時々で教育で不足している“本質的能力”を獲得することが目的。その教育で求められる能力を補う観点で提供。

合理的配慮の提供の質を支える全学的な取り組み

個々の教職員等による教育的支援の取り組み